

第5学年 社会科学習指導案

山形県上山市立南小学校 太田 馨

1 単元名 水産業の盛んな地域

2 単元の目標

- (1)我が国の水産業は、自然条件を生かして営まれており、国民の食糧を確保する重要な働きを果たしていることを理解することができる。【知識・理解】
- (2)水産物の種類分布、生産量の変化や外国とのかかわりに着目して水産業が国民生活に果たす役割を考えたり、生産の工程や人々の協力関係などに着目して水産業にかかわる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考えたりし、それらを表現することができる。【思考力・判断力・表現力】
- (3)自らの食生活とかかわらせながら、自分たちの暮らしと水産業をかかわらせて学ぼうとすることができる。【学びに向かう人間性】

3 本単元の指導にあたって

(1)児童について

給食で「赤魚の煮つけ」が提供された時、クラスの子ども数名がおかわりのじゃんけんに参加した。話を聞くと、魚が好きで、煮つけも刺身もよく食べるという。

このような児童の普段の姿をとらえた上で児童にアンケートを取った。「普段よく魚を食べるか」という問いに対しては、全員が「よく食べる」と答えた。また、好きな魚料理を聞くと、「焼き魚」「刺身」「寿司」など、多種多様な魚料理が挙げられた。一方で、「魚の切り身しか見たことがない」「漁師さんという人がいるのはわかるけど、どのように働いているのかわからない」という素朴な感想を抱いた児童もいる。山形県上山市は、周りを、奥羽山脈をはじめとした山々に囲まれた盆地である。そのような環境下で暮らす子どもたちは、「海」「魚」「漁業」に直接的にかかわる機会もなく、前述のような感想を抱いたのだと考える。「魚」というものにかかわっていながら、「いつのまにか食卓に出てくるもの」というイメージを抱く子どもが多いのが現状である。

(2)題材について

本単元は、学習指導要領における活動内容(2)-ア-(ア)及び、(4)-イ-(ア),(イ)を受けて設定された単元である。

日本は周辺を海で囲まれている。それゆえ、古来より魚を多く食べて生活してきた。昨今、日本人の食事の洋食化・多様化がより進んでいる傾向にあるが、「寿司」に代表されるように、まだまだ日本人の食生活に魚は欠かせない存在であることが言えよう。そのような食生活を支えているのが、漁業関係者である。漁師が魚を捕り、また、それを流通させたり、売買させたりする人がいて、食卓に魚が届くのである。だが、現在の日本では、その漁業関係者、特に漁師の高齢化や後継者不足といった課題がある。また、自然環境面に目を移すと、マグロなどの大型の魚の漁獲量は1970年代以降、次第に減ってきている現状がある。これは、各国が排他的経済水域を設定し、日本がこれまで漁をしていた区域に立ち入れなくなってきたこと、それでも需要は減らないために、日本近海を中心に漁を行ってきた結果、魚が減ってきてしまったことが原因とされている。これらの他にも様々な要素に起因して、日本の漁業はこれから長い将来にわ

たって安定的に魚を供給することができるのか、問題視されている面がある。

そのために、漁業関係者の間では、後継者を募集したり、漁の仕方を工夫することで環境に配慮し、生態系を守ることで持続可能な食料生産を目指すしたりする動きがある。特に、後者においては、「近大マグロ」に代表されるような養殖漁業など、課題は残っているものの、海から水産物を獲りすぎずに、消費者に質の良い水産物を提供しようとする動きがある。また、禁漁期間を設け、魚を人間の手で獲らずに、親が子を産む時間、子が育つ時間を確保し、海で魚が繁殖する時間を確保し、そのことで生態系を維持するという取り組みもされている。

生態系を守るための取り組みには、消費者側からの動きも見られる。「サステイナブル寿司」に代表されるように、海の生態系を崩さない範囲で、水産物を口にする取り組みである。具体的には、マグロなどではなく、ぶりやイカなど、消費しても今現在消費しても生態系に大きく影響しない生物を食べるなどすることである。今後、消費者側も、「ただ食べる」のではなく、持続可能な社会のためにすべきことに取り組む姿勢が求められていると言える。

(3)指導について

本単元では、子どもたちに、「自分のことだけでなく、漁業関係者や環境、将来世代のことを考えたうえで、今現在の水産物の消費活動を考える」ことができるようになることを目指す。そのために、①今現在、自分たちの食卓にどのようにして魚が届いているのか ②現在、水産業において、漁業関係者や自然環境が抱えている課題は何なのか について学び、その上で、③課題を解決していくために、自分たちはどのように生活していくとよいのかを考える学習を行っていく。その際、統計資料等を読み、現在の水産業の状況を把握する活動を多く仕組みたい。このように学ぶことを通して、これからの時代を生きる子どもたちが、自分のことだけでなく、漁業関係者、自然環境、将来世代の人々を考えたうえで自分の行動を決めることができるよう、指導していく。

そして、最終的には、子ども一人一人が、「ただ、魚を食べる」のではなく、漁業関係者や環境等にも配慮したうえで、「漁業を持続可能なものにしていくために、私たちはどのようにして生活をしていくのいくべきか」を考えられるようにしたい。

(4)ESD との関連について

1.この題材で主に働かせる ESD の視点

③有限性：水産資源は有限である。

④公平性：将来の世代にも、水産資源を活用できるように行動する。

2.主に育てたい ESD の資質・能力

○クリティカルシンキング

今現在の水産物の食生活を見直し、持続可能な食生活を送れるよう行動を変容させようとする力

○長期的思考力

データに基づき、漁師の高齢化・後継者問題や水産資源の枯渇問題を把握し、それを食い止めるための行動を考える力

3.変容を促したい ESD の価値観

○世代間の公正

次世代も水産資源を食べることができるよう行動決定する。

○自然環境・生態系の保存を重視する。

1人1人の行動の変容により、水産資源や自然環境を守る。

4.達成が期待される SDGs

目標 14：持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。

目標 12：持続可能な水産物の生産消費形態を確保する。

目標 8：包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①水産業は、自然環境を生かして営まれていることや、水産資源の確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>②水産業にかかわる人々は、生産性や品質を高めるように努力したり、輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食生活を支えていることを理解すること</p>	<p>①水産物の種類や分布、生産量の変化、輸入などの外国とのかかわりに着目して食糧生産の概要を捉え、食糧生産が生活に果たす役割を考え、表現すること</p> <p>②生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、水産業にかかわる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。</p> <p>③今後の安定した食糧生産に向けて、今現在の課題を把握し、その課題を解決するために自らが取り組めることを考え、表現すること。</p>	<p>①水産業について、そこにかかわる人の働き、工夫や努力、環境とのかかわりについて、自らの生活と照らし合わせながら理解したり、考えたりしようとしている。</p> <p>②水産業の課題を解決し、持続可能な食料生産を実現するために自らが取り組めることを考えようとしている。</p>

5 単元指導計画(全8時間扱い)

時	○学習活動 ・児童の発言	学習の支援 指導上の留意点	評価
み つ め る ①	<p>○「寿司」などを中心に、魚について知っていることを挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつもたくさん食べているよ ・マグロが好きで、いつも食べているなあ。 ・家では、刺身のほかに焼き魚を食べているよ! ・でも、そもそも魚はどこからやってくるのだろうか・・・? 	<p>写真「マグロの寿司」 写真「焼き魚定食」</p> <p>・自らの食生活を思い起こさせ、課題の設定の支援をする。</p>	ウ - ① 【発言】
問い① 魚は、どのようにして私たちのもとにやってくるのだろうか？			
<p>【子どもの捉え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段、よく魚は食べているが、どのようにして食卓までやってくるのかを知らない。 ・魚とは、お店で切り身の状態で売っているものだと考えている。 			

- 漁師や市場の人の働き方を調べ、食卓に魚が並ぶまでの過程を調べる。
 - ・どうやって調べていこうか・・・。
 - ・自分の家から、どんどんと遡って考えていくといいのではないだろうか。
 - ・まず、スーパーで買い物するでしょ・・・。
 - ・あれ、スーパーより前は、どこから魚が来るの？
 - ・しかも、スーパーでは既に切り身になっている・・・。
 - ・スーパーの人に話を聞いてみよう！
- スーパーの店員さんに、魚はどこからやってくるのかを取材する。
 - ・どうやら、市場というところから来るらしい。
 - ・でも、市場って、山形市にあるって言うんだけど、海がないよね・・・。海から山形市には、どうやって来るの・・・？
- 海から山形市へ、どのようにして魚がやってくるのかを調べる。
 - ・どうやら、海沿いの地域の市場から、山形市にやってくるようだよ！
 - ・魚を運ぶ人も、新鮮さを保ちながら運べるように工夫しているんだね。
 - ・海沿いの地域の市場で、漁師さんが獲ってきた魚を水揚げして、そこで売っているんだね！
 - ・漁師さんたちは、どのようにして魚を取っているんだろう？
- 漁師さんにリモートで取材を行う。
 - ・漁師さんたちは、いろいろな方法で漁をしているんだ。
 - ・船も大きいのを持っているんだね！
 - ・何日も海に出ていることがあるようだよ！なかなか魚を獲れないこともあるみたい・・・。
 - ・とった魚は、そのまま食べられるだけじゃなくて、かまぼことかにもなるとのことだったね。どのようにして作られるのかな？
- かまぼこなど、水産加工品の作られ方を調べる。

- ・自分たちの身近なところから遡って取材をさせる。
- ・教科書や資料集なども活用しながら、それぞれの過程で、様々な人が携わっていることに注目させる。

人材「スーパーの店員さん」

資料「山形市公設地方卸売市場水産物市場のセリの図」

- ・魚を売る人がいることに注目させる。
- ・魚を運ぶ人がいることに注目させる。

人材「庄内地方の漁師さん」

- ・魚を獲る人と出会わせる。
- 動画「様々な漁の行い方」

ア - ①
ア - ②
イ - ②
【ノ・音】

【子どもの捉え】

- ・普段食卓に出てくる魚には、多くの人の働きがかかわっていることに気づく。
- ・その人たちのおかげで、普段、おいしい魚を食べることができていることに気づく。

ふかめる ③	<ul style="list-style-type: none"> ○普段よく食べている回転ずしのマグロの寿司が、100円で売られているが、それは果たして高いのだろうか、安いのだろうか。 ・これまで、たくさんの人がかかわっていることを考えると、安い! ・いや、もっと安い値段で、たくさん食べられたほうがいいから、高いと100円でも高いと思うなあ。 ・実際に、漁にはどのくらいのお金がかかるのか、知りたいなあ・・・。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2カンで100円の寿司の写真を見せ、「この値段は高いか安いか」について問う。 ・この話題をきっかけに、マグロ漁師の経費の視点や環境の視点、消費の仕方の視点で、漁業の課題につなげられるようにする。 	ア - ① ア - ② イ - ① 【ノト・髯】
-----------	--	---	-----------------------------------

問い② 普段、100円でマグロの寿司を食べているが、本当にこの値段で食べてよいのだろうか。

○漁師さんに取材をしたり、資料を読んだりして、漁師を取り巻く経済的な厳しさを知る。

- ・そうか、船1隻でも、こんなに値段がかかるのか。
- ・お魚の値段によってお給料も変わるのなら、安い値段をつけられたら、お給料も安くなるよね。
- ・だから、漁師になる人も減っているのかな。これから魚を食べられなくなってしまうかもしれないね・・・。
- ・1回の漁でかなりのお金がかかるんだ。
- ・市場の人や、魚を運ぶ人にも人件費がかかるよね。
- ・やっぱり、一皿100円は安いんじゃないかな・・・。

○親マグロの生息する数が減っていることを知り、生態系について考える。

- ・以前は、排他的経済水域の影響で、日本近海のマグロがたくさん獲られたんだね。結局、僕たちがたくさん食べることが、このことにつながっているんだろうな。
- ・マグロの値段が安いからと言ってたくさん食べちゃうと、どんどん親マグロが減ってくるんだね。
- ・親マグロが減ると、子どもが生まれなくなるから、マグロの数は減っていくんだね。
- ・マグロが減ると、ほかの海の動物の生き方にも影響してくるんだ・・・。
- ・マグロのことや環境全体のことを考えると、100円という値段は安すぎるのかもしれないなあ。この状況が続くと、マグロを食べられなくなるかもしれないし、僕たちよりも後の人たちが食べる魚がなくなってしまう・・・。
- ・でも、おいしいんだよなあ。
- ・どうにか、この状況をよくできないかな・・・。

人材「庄内地方の漁師さん」
資料「漁師の働き方のインタビュー記事」
資料「漁師の人口の変化」

- ・これまでの学習を通して、漁業にかかわる人の視点をもたせる。

資料「漁獲量の変化」
資料「マグロの生態系の変化」
動画「排他的経済水域の設定と漁業の変化」

- ・排他的経済水域が設定されたことで、遠洋漁業が衰退し、日本近海でマグロを獲りすぎたことが、親マグロの減少につながってきたことをきっかけに、環境の視点をもたせる。

問い③ 働く人や環境を大切にしながらマグロを食べ続けるには、どうしたらよいのだろうか。

○漁師さんに取材をしたり、資料を読んだりして、漁業関係者の人々が行っている対策を知る。

- ・養殖漁業や栽培漁業など、育てる漁業を行うことで、海の魚を守りながら魚を食べられるようにして

資料「養殖漁業や栽培漁業の行い方」
資料「後継者募集のポスター」

- ・漁業関係者の視点での取り組みを

<p>いるんだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・禁漁期間を設けているそうだよ。親マグロが子どもを産んだり、生まれた子供が育ったりする時間を作っているんだなあ。 ・後継者を育てるために、ポスターを作っているそうだよ。働き手の人がいってくれるから、僕たちもおいしい魚を食べることができるもんね。 ・食べる側の私たちにも、何かできることはないのかな・・・？ 	<p>紹介し、自分たちにもできることを考えるきっかけをつくる。</p>	
--	-------------------------------------	--

【子どもの捉え】

- ・漁業にかかわる人の視点や環境への配慮の視点から、今現在の魚の消費の仕方に課題を持ち始める。
- ・課題解決に向けた漁業にかかわる人々の工夫や努力があることを知ると同時に、消費者として、自分たちにできることはないかを考え始める。

問い④ 漁業の課題を乗り越え、これからもおいしい魚を食べ続けられるようにするために、私たちにできることはないのだろうか。

<p>ひろげる①</p>	<p>○漁業の課題を乗り越え、持続可能な魚の消費を行うために、これから自分が取り組めそうなことを考え、「宣言」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お寿司の中でも、環境などの面から、「食べてもよい寿司」というのもあるんだ！逆に、マグロはあまり食べないほうがいいんだね。 ・僕は、これまで回転ずしでマグロを食べてきたけど、これからはイカとかぶりとかを食べてみようかな。 ・私も、いつも3皿くらいマグロを食べていたけど、1皿減らしてみようかな。 ・もっと、いろんな種類の魚のことを調べて、食べ過ぎたり、環境に良いものを選んでいきたいな。 ・安さだけを見るのではなく、働いている人のことも考えて、魚を買っていくようにしよう！ 	<p>資料「サステイナブル寿司」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点を「自分たち」に移し、自分たちで取り組めることを考えさせる。 ・「サステイナブル寿司」を紹介し、自分たちの身近なところに取り組みのきっかけがあることに気づかせる。 	<p>イ - ③ ウ - ② 【ノト・発言】</p>
--------------	--	--	------------------------------------

【子どもの捉え】

- ・自分が食べている魚が漁業関係者のくらしや環境に影響していることに気づき始めている。
- ・漁業関係者のくらしや環境を改善し、水産業を持続可能なものにするために、消費者の一人として自分に何をすべきかを考え始めている。日々の食事で、少しでも意識して行動していくことが大切である。